

## 公表 事業所における自己評価結果

事業所名		発達支援教室アウル宮前				公表日	令和6年12月27日
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		・設備基準を遵守している。		
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○		・人員配置基準を満たしている。		
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		・パーティションを用いることで、空間を構造化し、有効的に活用できている。 ・バリアフリー化が達成されている。		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		・毎日、清掃、消毒を行い、清潔な環境となるよう努めている。 ・空気清浄機、加湿器を設置し、感染予防にも努めている。		
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		・クールダウンが必要となる際には、子どもの特性に合わせた空間を都度設定するようにしている。		
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	○		・職員で、日々の活動に際して、計画、目標を設定し、都度振り返りを行い、必要に応じて、更新を行う話し合いの機会を持っている。		
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		・保護者向け評価表に基づき、職員間で話し合いを行い、必要な改善を行っている。		
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		・風通しのよい関係づくりをし、日々話し合いの機会を持ち、それに基づいて業務改善を行っている。		
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		○		・必要に応じて、第三者による外部評価の機会を設定していく。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		・内部研修(学び合いの機会)を定期的実施し、必要に応じて外部研修に参加する機会を設定している。		
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。		○		・現在、支援プログラムを作成中で、2月をめどに公表予定となっている。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	○		初回面談時にアセスメントを行い、ニーズの把握、行動観察に基づき、児童発達支援計画を作成している。また、外部で行った発達検査の結果等でも発達状況を把握し、支援計画の作成に生かしている。		
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		支援に関わる職員が、子どもを中心とした視点をもつことに重点を置き話し合いを行い、計画を作成している。		
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		日々の支援にあたっては、常に児童発達支援計画を意識するよう心がけている。		
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		日々の行動観察や外部で行った発達検査の結果等においても、子どもの状況を把握するようにしている。		
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○		本人支援を中心に、家族支援、移行支援、地域支援・地域連携の視点ももち、児童発達支援計画の作成を行っている。		
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		職員のミーティングで活動プログラムの内容を検討、決定し、必要に応じて変更している。		

供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		季節を意識した活動などを織り交ぜ、プログラムが固定化しないよう、職員間で話し合いを行っている。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ、児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	○		個別活動、小集団活動が概ね半々となるように設定している。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		支援開始前には、必要な打ち合わせを行い、チームとしての支援を意識するようにしている。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		支援後は、職員間で振り返りを行い、情報共有を行い、次回の支援に生かしている。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		支援後、支援のポイントとなる事項を記録し、次回の支援にも生かしている。	
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		定期的なモニタリングを行っている。	
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		相談支援事業所とはを管理者・児発管を中心として、適宜情報交換を行い、子どもや子どもを取り巻く状況を相互に理解するように努めている。	
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		必要に応じて、主治医や保健センター、子ども家庭支援センターや保育園・幼稚園などと連携できるよう関係作りに努めている。	
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○		保育園・幼稚園などと連携できるよう関係作りに努めている。 保護者の意向により、保育園や幼稚園と情報共有を行っている。	
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。		○		開設後1年を経過しておらず、小学校等との情報共有の方法を模索している。「就学支援シート」を活用し、子どものこれまでのあゆみを関係機関に適切に伝えていけるよう努めていく。
	28	(28～30は、センターのみ回答) ..... 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答) ..... 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	○		児童発達支援センター主催の研修に参加し、顔の見える関係づくりに努めている。必要に応じ、地域の情報や助言を得ている。	
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。		○		保護者の意向を今後検討していく。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		日々、お迎えの際にその日の活動をお伝えし、その中で保護者と子どもの状況や課題についても話をできるような関係の形成に努めている。	
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○		家族支援を図るため、ペアレント・トレーニングを実施したり、地域の情報を提供している。		
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		初回面談時やその他の機会に説明を行っている。利用開始後にも随時質問に応じている。	
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○		初回面談時に十分に聞き取りの時間をとり、面接技術を駆使し、子どもや家族の意向を確認している。	

保護者への説明等	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	○		計画作成時、計画案を保護者に提示しながら説明し、必要に応じて修正を行っている。	
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		保護者からの相談は随時受け付けており、電話や送迎時の相談のほか、必要に応じて面談を設定し、助言や関係機関の案内を行っている。急な面談希望にも、できる限り対応している。	
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。		○		保護者の意向を確認しながら、今後検討していく。
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		保護者からの相談申し入れに対しては、利用児の通園中や降園後の時間など、保護者の都合に応じて可能な限り迅速な日程や方法を提示し、対応している。	
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○		公式LINEを使い、保護者への案内を行っている。	
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		情報保護の規程を定め、注意喚起を適時行っている。	
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		イラストや写真などを多用し役立てている。	
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		○		今後、併設保育園と連携し、地域活動を実施していきたい。
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		各種マニュアルを策定している。今後は、適宜見直しを行っていく。玄関先に提示し、周知していく。	
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		年間計画を定め、必要な訓練を実施している。必要に応じて、BCPの見直しも行う。	
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○		初回面談時に確認するようにしている。その後も、保護者からの聞き取りにより状況を確認している。	
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。		○		食事提供場がないため、医師の指示書による食事の提供はない。ただし、アレルギーについては、初回面談時に聞き取りを行っている。
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○		定期的に見直しを行っていく。	
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○		玄関前に掲示し、保護者の方の理解を得ていく。	
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		日々の打ち合わせのかなで、共有をし、再発防止についても、話し合いを行っている。	
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		定期的な研修を行い、必要な知識習得を図っている。	
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	○		身体拘束は、本人の生命や身体の保護のため緊急を要する場合に、三要件を条件に行うことを職員の共通認識としている。保護者には重要事項説明書に記載し説明している。対象児童がいる場合には、組織的に決定し、支援計画に記載する体制があります。		

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	発達支援教室アウル宮前			
○保護者評価実施期間	令和6年11月19日		～	令和6年12月6日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	30	(回答者数)	23
○従業者評価実施期間	令和6年12月10日		～	令和6年12月17日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	4	(回答者数)	4
○事業者向け自己評価表作成日	令和6年12月27日			

## ○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	子どもが安心感をもって、通所を楽しみにしている。	全職員がまず第一に子どもとの信頼関係の形成に注力している。日々の保護者様からのヒヤリングや子どもとの会話を基に、他職種間で子どもの発達段階を見立て、子どもの興味関心、心理解を図り、職員間での情報共有を常に行っている。	本人、保護者様以外からも多角的に情報収集を図るため、保護者様の希望のもと、了解を得て、所属園への電話連絡や訪問を行っていく。
2	子どものことを十分理解し、子どもの特性に応じて専門性のある支援を提供している。	他職種間で子どもの様子を把握し、5領域と関連付けられた支援目標を設定し、個別支援計画を作成し、全職員間で共有し、支援にあたっている。指導後に、記録を行うことで、子どもの健康状態や発達の状況を確認し、次回の指導へと生かし、全職員で共有している。	本人、保護者様以外からも多角的に情報収集を図るため、保護者様の希望のもと、了解を得て、所属園への電話連絡や訪問を行っていく。
3	通所ごとに子どもの様子を保護者と話し合い、子どもの発達の状況について、共通理解ができています。	日々の療育の様子を職員間で共有し、保護者へはフィードバック、面談等でお伝えすることで、子どもの発達状況について、共有している。日頃から保護者様との会話を大切に、その中から子どもの様子を把握し、職員間で共有を図っている。定期的にペアレント・トレーニングを実施することで、保護者様と共に学ぶ時間を作っている。	今後も、お迎えの際のフィードバック時や面談等、機会があるごとに、子どもの健康状態や発達状況を伺い、共通理解を図るように努める。 今後もペアレント・トレーニングを継続し、職員、保護者様が共に学ぶ時間を大切にしていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	非常災害の発生に備え、定期的に訓練が行われているが、利用者様に伝わりづらい。	利用者様に訓練の周知が足りていない。	年間計画を元に、事前告知、実施報告を掲示やSNSを利用して周知していく。
2	父母の会や保護者会等の開催等、保護者同士の交流の機会やきょうだい同士の交流など、きょうだいへの支援が少ない。	保護者様ごとに希望の有無、希望内容が異なり、意見集約が難しい。 事業所の営業時間に鑑み、開催日や開催時間帯が限られてしまう。	保護者様のご意見を伺う機会を設けていく。 現在実施しているペアレント・トレーニングの場を活用して、保護者様の意見を伺っていく。
3	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が保護者様に周知・説明が不十分な状態となっている。	マニュアル類の掲示・設置場所がわかりづらい。	マニュアル類をわかりやすい場所に掲示したり、保護者様がいつでも手に取っていただけるよう設置するなどの対応をとる。